



コバトン



令和6年度病害虫発生予察注意報第2号

令和6年5月10日
埼玉県病害虫防除所

本年1～2月に実施したチャバネアオカメムシ等の果樹カメムシ類越冬密度調査における越冬虫数は過去10年で最多でした。このため、県内の果樹カメムシ類の予察灯への誘殺が、例年ではあまり確認されない4月から多く、4月の総誘殺数は多いところで平年の約25倍となっています。

また、関東甲信地方の向こう1か月の気温は高いと予想されており、今後さらに果樹カメムシ類の活動が活発になると予想されます。(5月9日時点)

本虫の発生量が多い年は長期間にわたる飛来があるため、園内の発生状況をよく確認し、必要に応じて追加の薬剤防除を行いましょ。また、多目的防災網の早期展張などを行い総合防除に努めましょ。

作物名 果樹全般

病害虫名 果樹カメムシ類 (チャバネアオカメムシ、クサギカメムシ、ツヤアオカメムシ、アオクサカメムシ)

1 注意報の内容

- (1) 発生地域 県内全地域
- (2) 発生程度 多

2 注意報発表の根拠

- (1) 令和6年のチャバネアオカメムシの越冬量は過去10年で最も多く、平年の6.4倍となっています。(参照：[果樹カメムシ類の越冬密度調査](#))
- (2) 果樹カメムシ類の予察灯への誘殺が、例年ではあまり確認されない4月から多く、地点によっては4月の総誘殺数が平年の約20～25倍となっています。(参照：[フェロモントラップ等調査データ \(更新：5月7日\)](#))
- (3) 関東甲信地方の向こう1か月の気象予報では気温が高いと予想されており、今後の本虫の活動はさらに活発になることが予想されます。

3 防除対策等

- (1) 多目的防災網が設置されている園では早期展張を行いましょ。
- (2) 本虫の発生量が多い年は長期間にわたる飛来があるため、飛来を確認したら必要に応じて表1を参考に追加で薬剤防除を行いましょ。
- (3) ピレスロイド系薬剤 (IRACコード：3A) は果樹カメムシ類への効果は高いですが、天敵への影響が大きいです。ハダニ類の増加につながる可能性があるため、なるべく連用は避けましょ。

(4) チャバネアオカメムシやツヤアオカメムシはスギやヒノキの球果を餌として繁殖します。スギやヒノキが近くにある山間部等では発生が多くなる可能性があるため注意しましょう。

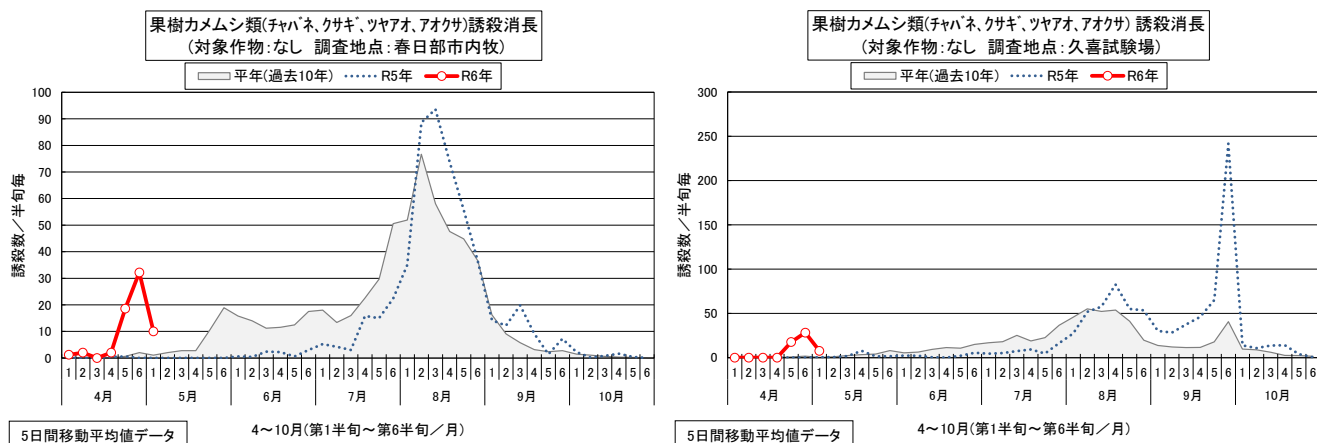


図 果樹カメムシ類の予察灯における誘殺消長（5月8日時点）
（左：春日部市、右：久喜市）



写真1 左：チャバネカメムシ成虫、右：ツヤカメムシ成虫



写真2 被害を受けたなし

表1 なしにおけるカメムシ類の防除薬剤例（使用基準は令和6年5月7日現在）

薬剤名	IRACコード	使用時期	使用回数
アディオソ乳剤	3 A	収穫前日まで	2回以内
アーデント水和剤	3 A	収穫7日前まで	3回以内
ダントツ水溶剤	4 A	収穫前日まで	3回以内
スタークル顆粒水溶剤 または アルバリン顆粒水溶剤	4 A	収穫前日まで	3回以内
モスピラン顆粒水溶剤	4 A	収穫前日まで	3回以内
テッパン液剤	2 8	収穫前日まで	2回以内

＜農薬使用上の注意事項＞

- 1 農薬は、ラベルの記載内容を必ず守って使用する。
- 2 剤の使用回数、成分毎の総使用回数、使用量及び希釈倍数は使用の都度確認する。特に、蚕や魚に対して影響の強い農薬など、使用上注意を要する薬剤を用いる場合は、周辺への危被害防止対策に万全を期すること。
- 3 農薬を散布するときは、農薬が周辺に飛散しないよう注意する。
- 4 周辺の住民に配慮し、農薬使用の前に周知徹底する。
- 5 スピードスプレーヤを使用した防除ではドリフトが発生しやすいため、風のない日に適正な方法で散布する。
- 6 農薬の最新情報は、[農薬登録情報提供システム（農林水産省）](#)から検索できます。

※ 埼玉県農薬危害防止運動実施中！（令和6年5月1日～8月31日）

4 問合せ先

埼玉県病虫害防除所 電話：048-539-0661